

2022年7月31日 午前礼拝
「主が我らを遣わされる」 説教者：田村成幸宣教師

【引用聖句】

エレミヤ書 1:4~10

4 次のような主のことばが私にあった。

5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」

6 そこで、私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧のとおり、私はまだ若くて、どう語っていかわかりません。」

7 すると、主は私に仰せられた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。

8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。—主の御告げ—」

9 そのとき、主は御手を伸ばして、私の口に触れ、主は私に仰せられた。「今、わたしのことばをあなたの口に授けた。

10 見よ。わたしは、きょう、あなたを諸国の民と王国の上に任命し、あるいは引き抜き、あるいは引き倒し、あるいは滅ぼし、あるいはこわし、あるいは建て、また植えさせる。」

【説教要約】

1、主の主権による派遣 (エレミヤ書 1:4、5)

エレミヤ 1:4、5

4 次のような主のことばが私にあった。

5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」

主の預言者エレミヤの召命に関して見ますが、ここから今の私達の教会に取って何が大事で何が必要なのかを見て参ります。

まずは、「主の主権」です。この時、エレミヤに語られたのが神様のご計画の確かさです。一人の人間に関しての詳細で明確なご計画を持ち、それを実行される御力をお持ちなのが聖書の示す生けるまことの神です。天地万物を創造しご支配し導かれているお方です。全知全能の神ゆえに成される事です。(イザヤ書 14 章 24 節)

イザヤ 14:24

24 万軍の主は誓って仰せられた。「必ず、わたしの考えたとおりに事は成り、わたしの計ったとおりに成就する。」

最近、温暖化の問題がありますが、地球の平均気温が1℃上がるだけで甚大な被害が全世界に及びます。宇宙を見渡せば、プラス何千℃、マイナス何百℃と言った星が無数にある中、地球の様な繊細な状況はほぼ皆無です。太陽と地球の距離(1億5千万キロ) 太陽と地球の直径等、全てが緻密に計算された神の御業です。その様な中で私達は生かされています。

主なる神が、エレミヤを召し出しユダ王国の為の預言者として遣わす計画を直接彼に伝えられました。(エレミヤ書 1:2、4、5、7、8)

エレミヤ 1:2、4、5、7、8

2 アモンの子、ユダの王ヨシヤの時代、その治世の第十三年に、エレミヤに主のことばがあった。

4 次のような主のことばが私にあった。

5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」

7 すると、主は私に仰せられた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。

8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。一主の御告げ—」

これは、遣わされる働きが主なる神によって導かれる事が分かります。勿論、現在は新約の教会時代ですから地方教会を通して遣わされますが、その主権は主にあります。この事は、パウロの召しに関しても同じ事が言えます。(使徒 9 章 15、16 節)

使徒 9:15、16

15 しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。

16 彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならぬかを、わたしは彼に示すつもりです。」

ここでも、教会の迫害者パウロへの主のご計画が示されていますが、神は、速やかにそれを実行されました。パウロは、アンテオケ教会から宣教師として遣わされて行く事になります。

また、主の主権による派遣は、新約聖書の中でも語られています。(マタイ福音書 28 章 16 ~20 節)

マタイ 28:16~20

16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。

17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。

18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、

20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

よって、私達は、自分の努力、能力ではなく主の主権、御力によって遣わされて行く事を覚えると言う事です。

2,神に目を留めよ。(エレミヤ書 1:6~10)

エレミヤ 1:6~10

6 そこで、私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧のとおり、私はまだ若くて、どう語っていかわかりません。」

7 すると、主は私に仰せられた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。」

8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。—主の御告げ—

9 そのとき、主は御手を伸ばして、私の口に触れ、主は私に仰せられた。「今、わたしのことばをあなたの口に授けた。」

10 見よ。わたしは、きょう、あなたを諸国の民と王国の上に任命し、あるいは引き抜き、あるいは引き倒し、あるいは滅ぼし、あるいはこわし、あるいは建て、また植えさせる。」

主なる神様から召し出されたエレミヤは、自分を見て働きに相応しくないと思ったのか、自分の若さを嘆きました。勿論、人間は、誰しもが足りなさを覚え悩み苦しむものですが、ここで大事なものは「何処に目を留めるか」なのです。

エレミヤは、御言葉よりも自分に目が行っていたので自分の足りなさを覚えたのですが、そうではなく神様に目を留める。と言う事です。神様に目を留めると言う事は、御言葉に目を留める、と言う事です。さすれば、自分の弱さを補って余りある神様の大きい御力と恵みを覚える事が出来ると言う事です。

黙示録 3:8

8 「わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」

(主が行けと言われたから行っただけであり、主が開かれたので進んだだけ。)

(自分ではなく他人ではなく、神に目を留める。御言葉に目を留める。)

エレミヤ書 1:8~10

8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。—主の御告げ—

9 そのとき、主は御手を伸ばして、私の口に触れ、主は私に仰せられた。「今、わたしのことばをあなたの口に授けた。」

10 見よ。わたしは、きょう、あなたを諸国の民と王国の上に任命し、あるいは引き抜き、あるいは引き倒し、あるいは滅ぼし、あるいはこわし、あるいは建て、また植えさせる。」

神様は、エレミヤと共におられて守り導かれると約束され、御手をもって聖さと御言葉を授けられそれを宣べ伝える事によって、イスラエル民族(ユダ王国)が砕かれ建て上げられて行く結果となって行きます。ですから、彼も私達も何も恐れる事はないのです。エレミヤの名前の意味は、「ヤハウエが高める」と言う意味ですので、まさに名の通りと言う事です。

(イザヤの口に祭壇の燃える炭が触れたので彼は聖なる者とされた。エレミヤは御手による)

これらの事から、今の私達もエレミヤ同様の働きが委ねられていると言う事が出来ます。それが教会を通してなされる福音宣教の働きなのです。そして、その働きに携わる者として相応しくない者は誰も居ない。全ての救われた者が主の働きを成すと言う事です。

3、教会による派遣。(エレミヤ書 1:8~10)

エレミヤ 1:8~10

8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。一主の御告げ―

9 そのとき、主は御手を伸ばして、私の口に触れ、主は私に仰せられた。「今、わたしのこゝろをあなたの口に授けた。

10 見よ。わたしは、きょう、あなたを諸国の民と王国の上に任命し、あるいは引き抜き、あるいは引き倒し、あるいは滅ぼし、あるいはこわし、あるいは建て、また植えさせる。」

イエス様の十字架の死とよみがえりによってもたらされる救いの道。その事を信じる誰もが罪赦されて天国へ招き入れられる。この事は、人間にとって最も大事な事である、とパウロは証ししています。何と素晴らしい事か。私達にとってのまことに大きなことをして下さったのです。

兄弟の皆様、救われた事を本当に感謝しておられますか？心から喜んでおられますか？それ故に遣わされる事を願っておられますか？私達は、それぞれの地に場所に教会を通して遣わされているのです。福音は、神の力です。何も恐れる事はありません。(ローマ 1 章 15 ~17 節)

ローマ 1:15~17

15 ですから、私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。

16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

17 なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

(自身の救いと感謝)

(山形での証し、中学時代)

故に、更に宣教師派遣、開拓伝道の働きが成されるべき時代なのです。地方教会が正しい聖書の教理、信仰によって一致を保ち、諸教会との協力を得ながら終末の時代に臨んで行く事になります。

私達は、全世界へのビジョンが必要ですし、そのビジョンは、今の私達が立っている場所から始まり全世界に至るものであると言う事です。主の預言者達、弟子達は、救われた者として福音を全世界に伝えて行きましたが、我々もまた同じなのです。

この世は、ますます住みにくく、暮らしにくい世の中になって行きます。それは、悪魔が自分の時間が残されているが少ない事を知っているからです。故に、私達クリスチャンは、御言葉に対して信仰によって歩む事、主に寄り頼んで全てを委ねて歩む事が肝要なのではないでしょうか。